

**H28 年度
古賀市・福工大連携事業
コスモス市民講座 6 月講演会
“分ければ資源！
分別ごみに思うこと”
社会環境学部仁科信春教授による
講演会をレポート！**

福岡工業大学は平成 26 年 7 月に古賀市と包括的連携協定を締結して以来、まちづくりの推進に関する、教育、文化及び学術研究の振興に関する、産業振興や観光振興など地域経済の活性化に関する、環境保全及び防災対策の推進に関する、人材の育成、交流に関すること等を中心とした様々な事業に協働で取り組んでいます。

このたび、平成 28 年度連携事業の一環として、平成 27 年度に古賀市が仁科教授に依頼した「古賀市家庭系ごみ分別市民意識調査」の分析結果に基づく古賀市民を対象とした講演会が 6 月 18 日に古賀市民館リーバスプラザで開催されました。会場にはごみの分別や資源リサイクルに積極的に取り組んでいる古賀市環境市民会議のメンバーも参加し、予定していた二時間があっという間に感じられるほど、充実した内容の講演となりました。

プログラムは、「古賀市家庭系ごみ分別市民意識調査」分析結果報告からスタート。生ごみの資源活用のための分別、生ごみを可燃ごみと分別することの実効可能性について、「分別したほうがよい」「分別の必要はない」の 2 類型による分析結果が、また今後の可燃ごみの焼却方法について、「今までどおり焼却する」「費用がかかっても焼却以外の方法を検討した方がよい」の 2 類型による分析結果が、当初の仮説に対してどうであったか、グラフや数値を用いて詳細に示されました。

次は環境問題を解決するうえでの基本的考え方のレクチャー。「道路にたばこの吸い殻が落ちている」といった事例を挙げて、現状把握（何が問題なのか状況を認識する）、その問題を解決するためにいくつかの課題を設定、協働（市民、団体、事業者、行政といった地域の各主体が対等な立場で役割を分担し、連携して活動に取り組むこと）というように、順を追って問題解決に至る手法についての説明が続きます。



◆講師を務めた社会環境学部 仁科信春教授

例えば、環境問題の解決について考える上で大切なこととして 7 つのポイントがあげられました。①市民、コミュニティ、学校、行政等の関係主体が「協働」の意味を正しく理解し、その必要性を認識する、②意識改革を行う（人任せにしない等）、③主体的に行動する（自身に何が求められていて何ができるのかを自身で考え行動する）、④環境に対して関心を持つ（現状把握と危機認知）、⑤とにかくやってみる、はじめてみる、⑥継続する、⑦各自が謙虚に学ぶ、です。また、環境問題はとかく社会的ジレンマに結びつきやすい。ジレンマ解決のために“教育”と“学び”によって法やマナーを守る、社会的に望ましい行動をとるといった「態度」を形成することが大事であり、地域協働の取り組みによって教育がなされることが重要であるとの説明がありました。さらに“教育”について、教育を受ける側、学ぶ側だけでなく、教育する側においても継続的な教育と個人の学びが必要であることの補足がありました。

最後に、仁科教授より、古賀市の環境行政においては、関係主体による共働（協働）の取り組みが精力的に実践され、これが市の環境基本計画やごみ処理基本計画に位置付けられている点で非常に素晴らしいとすうえで、環境市民会議のより実効性のある活動とするために、活動に対する振り返りを行うこと、地域での人材育成に取り組むこと、などのアドバイスがあり、閉会となりました。地域に根差した仁科先生の地道な活動と、会場に訪れた聴講者と古賀市環境課の皆さんの目標に向かってやる気に満ちた表情が強く心に残った講演会でした。（大学・地域連携推進室）



◆開会の挨拶を古賀市環境課長よりいただきました



◆会場には熱心な受講者が多数参加されました



◆環境市民会議メンバーから質問がありました